

種子屋久農協花き振興会 女性研修会・出荷協議会を開催！



【女性研修会】

種子屋久農協花き振興会は3月3日、西之表市市民体育館で女性研修会を開催しました。

生産者や関係機関から約30人が出席し、種子島の葉物や枝物の生産について研修を行いました。

研修会では、県経済連果樹花き課の富永技術主管が「葉物・枝物は種子島の宝物」をテーマに講演しました。富永氏は、全国の流通状況を解説した上で、市場で有利に販売するために産地が取り組むべき姿をアドバイスしました。最後に、将来の大きな目標として「葉物・枝物・球根で10億円産地を目指しましょう」と呼びかけると、参加者は熱心に耳を傾けていました。

研修会の終了後には、ロベレニー生産者の前沢さんを講師に招いてリフレッシュヨガを行い、日ごろの疲れを癒やすとともに、会員同士のきずなを深めました。



【出荷協議会・目揃え会】

3月4日、長谷集荷場でフェニックス・ロベレニーやシキミ、ヒサカキの出荷協議会・目揃え会を開催しました。生産者や関係機関から約40人が出席し、次年度の収量確保と出荷体制の強化に向けて、選別基準などを再確認しました。

会では、県経済連果樹花き課の白木さんより、ロベレニーやヒサカキは品質が安定しており「注文に応じきれないほどの発注がある」と需要の高さが説明されました。

一方で、シキミは消費低迷や出荷の不安定さから「客離れ」が深刻化しており、値決め取引の要となる信用の回復が急務となっていることを説明し、出席者は、高品質な商品を安定して届ける体制の再構築が必要との認識を共有しました。

後半の目揃え会では、実際の枝を手に取りながら結束方法や細かな選別基準を確認しました。

